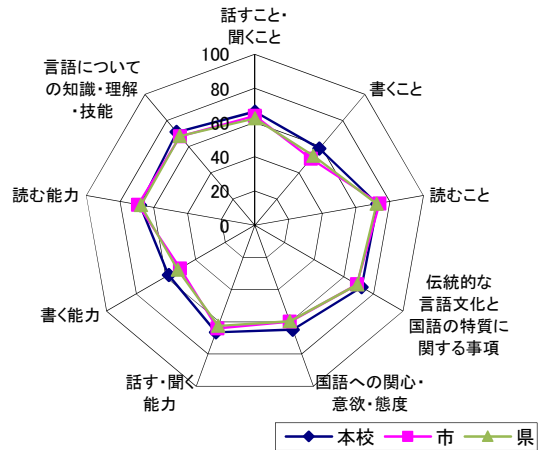


宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.5	64.0	62.5
	書くこと	58.7	50.9	53.1
	読むこと	72.7	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	64.8	59.9	59.7
	話す・聞く能力	66.5	64.0	62.5
	書く能力	58.1	50.4	52.0
	読む能力	68.1	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	71.2	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

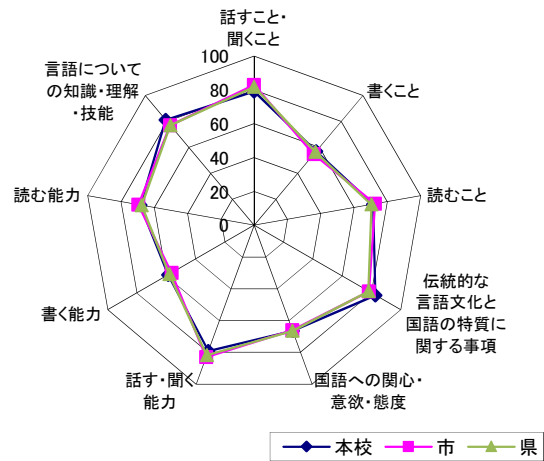
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は66.5%と、県の平均正答率62.5%より4%高い。話し方の工夫に注意して聞き取ったり、話題に沿った意見と理由を考えて話したりすることはできる。 ●インタビューの質問のねらいを理解することが苦手な児童が多い。	・話を聞くときはメモを取るなど、話の中心を落とさずに聞き、自主的に話し合いに参加できるように促す。 ・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動においても基本的な話の聞き方を身に付けさせる。
書くこと	○平均正答率は58.7%と、県の平均正答率53.1%より5.6%高い。書くこととすることの中心を明確にして文章を書くことができる。 ●2段落構成で文章を書くことを苦手としている児童が多い。	・短文づくりや作文など、文を書く練習を意図的に取り入れ、文を書くことに慣れさせるとともに基礎的な文の記述を身に付けさせる。 ・教科書の説明文を視写させるなど、段落のまとまりを意識して文章を書くことができるように指導していく。
読むこと	○平均正答率は72.7%と、県の平均正答率72.2%より0.5%高い。場面の様子を読み取ることができる。 ●段落の役割を理解して、文章の内容を読み取ることが苦手としている児童が多い。	・段落ごとの話の中心をとらえ、要点をまとめられるように指導していく。 ・低学年のうちから文章の中心をとらえて言葉にしていこうに慣れさせる。 ・物語教材では、それぞれの読み方を共有する学び合いの場を設けることで、多面的な読みが深まるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は72.1%と、県の平均正答率69.1%より3.0%高い。3学年配当漢字の読み書きはできる。 ●文章の構成(主語と述語)や、国語辞典の使い方を理解していない児童が多い。	・国語だけでなく他教科においても国語辞典を活用し、使い方に慣れさせる。 ・短文づくりや、文章の読解において主語述語を意識させる。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.2	82.9	81.8
	書くこと	57.1	54.8	56.5
	読むこと	71.4	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.8	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	66.5	66.0	66.4
	話す・聞く能力	79.2	82.9	81.8
	書く能力	58.7	56.3	57.9
	読む能力	68.3	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	81.4	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

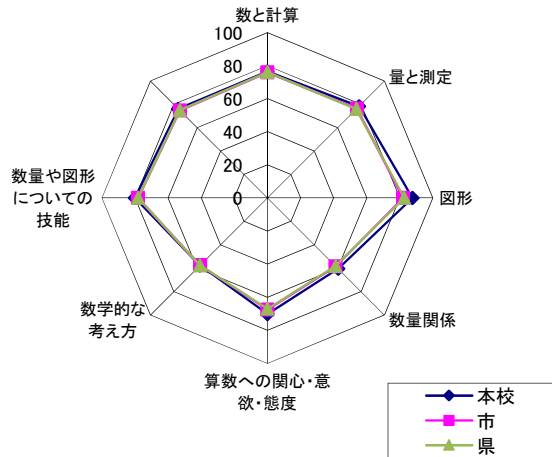
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は79.2%と、県の平均正答率81.8%より2.6%低い。話の中心に気を付けて聞き取ることが苦手としている。 ○話し方の工夫について聞き取ることができる。	○話を聞くときはメモを取るなど、話の中心を落とさずに聞き、自主的に話し合いに参加できるように促す。 ●筋道を立てて話せるよう、自分の考えをまとめる活動を増やしていく。
書くこと	○平均正答率は57.1%と、県の平均正答率56.5%より0.6%高い。書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができる。 ●読み手に伝わる順序で文章を書くことが苦手な児童が多い。	●構成を工夫して文章を書かせたり、書いた文章を互いに読み合ったりし、読み手に伝わる文章を書けるようにする。
読むこと	○平均正答率は71.4%と、県の平均正答率70.5%より0.9%高い。説明文の文章の内容を読み取ることができる。 ●目的や必要に応じて場面の様子と登場人物の気持ちを読み取ることが苦手な児童が多い。	●設問の意図を正しく理解し、意図に即して答えられるよう繰り返し練習を行う。 ●言葉の意味を正しくとらえられるように、文章中の書かれている言葉を一つ一つ確認し、読み深められるようにする。 ●物語教材では、それぞれの読み方を共有する学び合いの場を設けることで、多面的な読みが深まるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は82.8%と、県の平均正答率78.1%と4.7%高い。指示語の使い方をよく理解している。 ●文の構成(連用修飾語)について理解することができていない児童が多い。	●短文づくりや、文章の読解において文の構成を意識させる。 ●繰り返しのプリント学習を通して、修飾語について習熟をさせる。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.4	75.8	76.1
	量と測定	78.3	76.5	76.0
	図形	87.6	82.1	82.7
	数量関係	60.5	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	70.1	67.4	67.0
	数学的な考え方	57.7	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	80.0	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	76.2	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

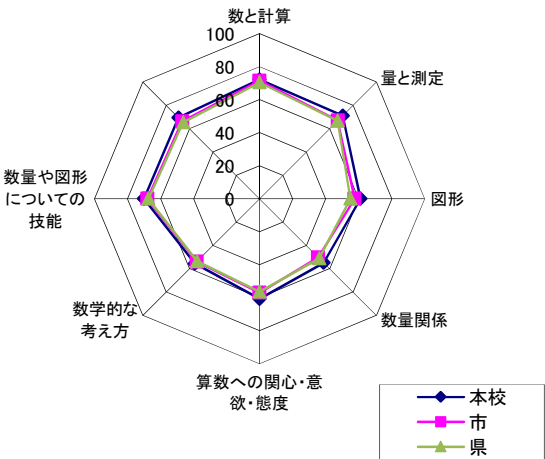
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率が、76.4%で市の平均正答率の75.8%を0.6ポイント上回っている。かけ算や割り算、同分母の足し算の計算は理解し、処理することができていることが伺える。 ●2けた+2けた=3けた(波及的繰り上がりあり)の計算において、誤答が見られたり、整数-小数第一位の計算においてつまづきが見られたりした。 ●かけ算や割り算の文章問題から立式したり、計算の仕方を筋道立てて説明したりすることが苦手である。	・文章から立式する方法や計算の仕方の工夫について繰り返し指導する。 ・言語活動を意識的に設定することで、文章を的確に読み取って立式できるよう指導していく。
量と測定	○平均正答率が、78.3%で市の平均正答率の76.5%を1.8ポイント上回っている。 ○2つの時刻を比較して、その間の時間を正確に求めることができる。長さや重さに関する概念をよく理解することができている。 ●単位の換算(時刻)において正確な知識が身につけていない児童が見られた。	・単位の換算では、普段の生活において意識的に取り上げて定着を図れるようにする。また、学んだ知識を日常生活や他の教科で用いようとする態度や、目的に応じて用いることができる力を育てていく。
図形	○平均正答率が、87.6%で市の平均正答率の82.1%を5.5ポイント上回っている。 ○正三角形の作図では、97.3%とほとんどの児童が正確に作図することができた。 ●円の直径を使った応用問題では理解の不十分な所が見られた。	・問題に継続して取り組ませることで、定着を図る。 ・応用問題に繰り返し取り組ませ、図形の特性を基本とした面積や円周の求め方を多面的に考えることができる力を育てる。
数量関係	○平均正答率が、60.5%で市の平均正答率の58.4%を2.1ポイント上回っている。 ●記述式の問題において、市の平均正答率は上回っているものの、理由を説明する問題において、正答率が26.7%と低いことから言葉での説明を苦手としていることが分かる。	・理由や根拠を自身の言葉で説明して書かせ、筋道立てて話したり、考えたりする機会を意図的に設けるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.3	71.5	70.4
	量と測定	71.2	67.0	66.9
	図形	61.1	57.6	55.0
	数量関係	54.8	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	60.6	57.0	56.3
	数学的な考え方	55.5	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	70.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	69.5	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

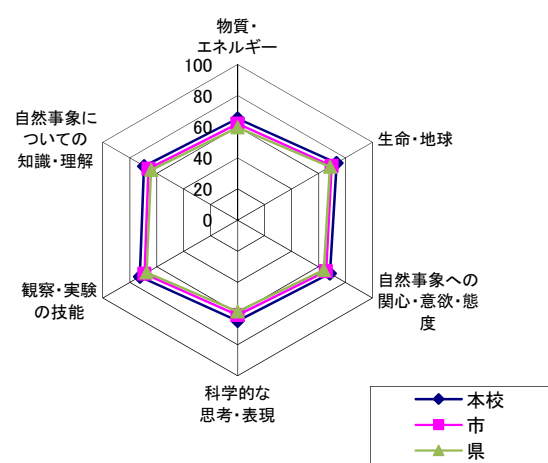
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は72.3%と市の平均正答率の71.5%より0.8ポイント上回っている。 ○帯分数－真分数＝帯分数(繰り下がりあり)の同分母分数の計算では、校内正答率が82.7%とよくできていた。 ●大きな数の相対的な大きさについての理解が55.8%となっており、県の平均を2.6ポイント下回っている。	・数の相対的な大きさについては、継続してドリル学習やプリントによって習熟を図っていく。
量と測定	○平均正答率が、71.2%で市の平均正答率の67.0%より4.2ポイント上回っている。 ○分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取りは、県の平均より12.1ポイント校内正答率が高い。 ●長方形の面積の公式は分かっているが、想像して数量の見当をつけることが難しい。また、記述式の問題において、市の平均正答率は上回っているものの、理由を説明する問題において、言葉での説明を苦手としていることが分かる。	・理由や根拠を自身の言葉で説明し、筋道立てて考える機会を設けるようにする。 ・数量の見当をつけることが難しいので、日常生活と関連した教材の設定を工夫し、学んだ知識や技能を日常生活で生かしていこうとする態度や、目的に応じて用いることができる力を育てるようにする。
図形	○平均正答率が61.1%で、市の平均正答率の57.6%を3.5ポイント上回っている。 ○四角形、直方体、ひし形の図形について、基本的なことは理解している。 ●地図の中で平行四辺形の特徴を使って説明する問題において、平行四辺形の特徴は理解しているものの、それを使って文章で説明することができていない。	・計算練習だけでなく、相手にも分かるように説明するなど、筋道を立てた思考を持てるようにする。また、学習したことを自身の言葉や図などで表し、友達と共有する機会を意図的に設けることで、思考の軌跡を残し、思考を組み立てる力を伸ばす。
数量関係	○平均正答率は、54.8%で、市の平均正答率50.2%を4.6ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量関係を式に表すことができていない。 ●折れ線グラフの意味や読み取りはできているものの、理由を説明する問題において、言葉での説明を苦手としていることが分かる。	・学習の過程において、理由や根拠を自身の言葉で説明し、筋道立てて考える機会を設けるようにする。また、考えたことを文章にすることで自分の思考をまとめる力を育てていく。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.3	61.9	59.4
	生命・地球	73.4	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	68.4	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	64.7	61.0	58.8
	観察・実験の技能	72.5	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	69.4	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

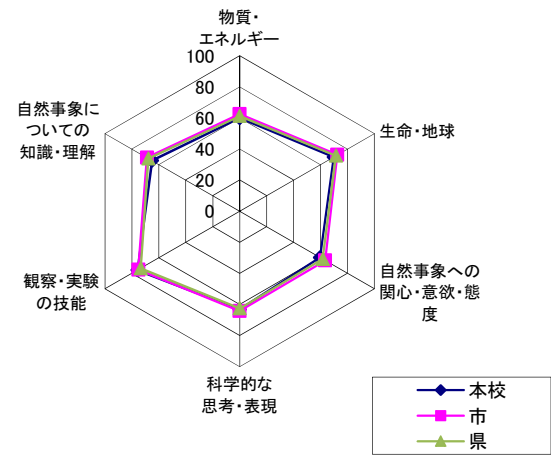
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○電気の通り道では、すべての設問で正答率が市・県の平均を約10ポイント位上回っている。 ○同体積の物体の重さを推理する設問では、県の平均を15ポイント位上回っている。 ●磁石の性質では、正答率は約60%前後で、県の平均を超えてはいるが、理解の定着が十分とは言えない。	・実験や観察の手順をしっかりと押さえ、結果を生かして考察を丁寧にしていく指導が効果的だったので、今後も継続して指導していく。 ・磁石の設問の正答率が低かったので、実験など十分な体験をさせるとともに、自由に操作させるなど興味関心を高めるように指導していく。
生命・地球	○昆虫の体のつくりでは、すべての設問で正答率が市の平均・県の平均を約5ポイント位上回っている。 ○太陽と地面の様子では、日なたと日かげの温度の上がり方についての設問が、正答率が90%を超えている。 ●昆虫の育ち方では、モンシロチョウの卵から成虫についての設問の正答率が低かった。	・身近な自然や生物への関心が高いことが、正答率が高いことにつながっていることから、今後も体験活動の充実を図っていく。 ・モンシロチョウの卵から成虫についての設問の正答率が、正答率が低かったことから、視聴覚教材を活用するなど内容について具体的に指導していく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.9	62.4	61.1
	生命・地球	69.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	59.6	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	63.1	64.1	62.6
	観察・実験の技能	75.8	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	65.1	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○空気が熱で膨らみことについての設問では、正答率が、90%を超えている。 ○空気でつぼの玉が飛ぶ理由を問う設問では、県の平均を5ポイント上回っている。 ●電流の設問では正答率が低く、知識・理解が十分とは言えない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・観察や実験を丁寧にまとめるとともに、分かったことを自分の言葉で表現して知識・理解の定着を図るようにする。 ・電気の流れを問う設問の誤答を分析し、モデル化するなど児童のイメージしやすい教材を提示する。 ・観察や実験を正しく行うことについては、定着が図られているので、今後も指導の充実を図っていく。
生命・地球	○星座早見表の使い方の設問では、県の平均を6ポイント上回っている。 ○一日の気温の変わり方から天気を予測する設問では、正答率が98%を超えている。 ●自然事象についての知識・理解が県の平均よりも低く、特に蒸発した水の行方について設問の正答率が低い。	・水蒸気など目に見えない現象については、実験の中で一つ一つ取り上げて確認するとともに、絵や図などを使って分かりやすく表現し、言葉だけでまとめないようにしていく。また、身の回りに同じ現象がないか調べたり、理由を考えさせたりして理解を深めていきたい。 ・観察の時間を十分に確保するとともに、視聴覚教材などを活用して、知識・理解の定着を図るように指導していく。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「だれにたいしても、思いやりの心をもってせっている」に肯定的な回答をした児童は、93.3%で、県の平均より7.0ポイント、市の平均より6.8ポイント高い。このことから、本校の児童は、思いやりの心をもって他の人に接しているといえる。今後とも思いやりの気持ちを大切に生活できるよう支援していきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」に肯定的な回答をした児童は、92.0%と非常に高く、県の平均より9.6ポイント、市の平均より6.5ポイント高かった。また、「家の人は、ほめてくれる」と肯定的な回答をした児童が、89.3%で、県よりも8.2ポイント、市より5.2ポイント高かった。

○「自分には良いところがあると思う」に肯定的な回答をした児童は、92.0%と高く、県の平均より11.3ポイント、市の平均より7.6ポイント高く多くの児童が学校や家庭で認め、称賛されていることから、自己肯定感が高い児童が多いといえる。

○「自分の行動や発言に自信をもっている」に肯定的な回答をした児童は、72.0%と高く、県の平均より6.6ポイント、市の平均より4.6ポイント高く、全体的に自信をもって行動している児童が多いといえる。

○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」と肯定的な回答をした児童は、65.3%で、県の平均より5.9ポイント、市の平均より7.6ポイント高い。これからも授業の際に、学習のめあてを明確に児童に示すとともに、授業の最後に児童が本時の授業内容を振り返る場と時間を確保するようにしたい。

●学校以外の学習時間において「1時間より少ない」と答えた児童が、66.7%であったが、県の割合は52.8、市の割合が59.5%であったことから、家庭における学習時間が県や市の割合よりも少ないといえる。そこで、保護者にも働きかけ、自主学習の推奨などを行い、進んで家庭学習等に取り組めるような環境づくりを行う必要がある。

●「本やインターネットを利用して、勉強に必要な情報を得ている。」と肯定的な回答をした児童は、30.7%と県の平均より9.7ポイント、市の平均より10.7ポイント低い。授業等でパソコンなどの情報機器を利用する機会を増やすことで、インターネットを有効に活用し、自分たちに必要な情報を収集する能力を育てていきたい。

●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の質問に、「はい・どちらかと言えばはい」と肯定的な回答した児童の割合は、60.0%と県の平均より13.9ポイント、市の平均から12.6ポイント低い。このことから、学習意欲が高まるような授業の展開を図り、児童が興味・関心をもって取り組めるような課題設定や発問の工夫をしていく必要がある。

●テレビやビデオ、DVDを見ている時間が平日に「1時間以上」と回答した児童が84.0%で、県の平均より8.7ポイント、市の平均より7.5ポイント高い。このことから、テレビやビデオ、DVDの視聴時間が県や市の平均時間より多いといえる。家庭との連携を図り、テレビなどの視聴時間を決めたり、読書や学習の時間を作ったりするよう働きかけを行う。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○規則正しい生活習慣については肯定割合が高く、健康な生活を心がけていると言える。
 ○ゲームに費やす時間も1時間を下回る児童が多く、家庭での約束を守って使用していることが分かる。
 ○「人と話すことは楽しい。」と答えた児童が85%で、県平均より9ポイント高く、人と関わることに積極的で、相手を肯定的に受け止めることのできる良好な関係づくりができています。
 ○「家の人と将来のことについて話すことがある。」と答えた児童は50.9%で県平均より10ポイント高い。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と答えた児童は64.2%で県平均より8ポイント高い。今後も、家庭と学校が児童のよさを認め共有することで、自己有用感をさらに高めていけるようにしたい。
 ●「家で学校の宿題をしている。」の肯定割合は94.3%と県平均より5ポイント高く、家庭学習への取組状況はよい。一方で、「自分で計画を立てて勉強している。」と答えた児童は32.1%にとどまり、自ら課題を設定したり計画を立てたりして取り組むことに課題が見られた。
 ●学校での学習については、「意欲的に取り組んでいる。」と答えた児童が41.5%で県平均よりは5ポイント高いが、自分が学ぶことの理由付けや必要性についての理解はまだ十分とは言えない。「各教科が将来のために大切だと思いますか。」では、どの教科も市平均を上回っているため、自分の夢を実現させる上で、今、学習している内容をきちんと身に付けることの大切さについて児童が理解して学習をしていけるよう指導にあたっていきたい。
 ●「勉強していてもおもしろい、楽しいと思うことがある。」「勉強していても不思議だな、なぜだろうと感ずることがある。」と答えた児童は66.0%と県平均より10ポイント高く、意欲的に学習に向き合っていると言える。「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたいと思う。」と答えた児童は28.3%と低く、市平均と比較しても3ポイント低い。また、「難しい問題に出会うとよりやる気が出る。」の肯定割合も低く、主体的に学ぼうとしたり、粘り強く取り組んだりする意識にまではまだ高まっていない。
 ●「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」の肯定割合が45.3%で県平均より約7ポイント高い。「友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の肯定割合は77.4%で市・県平均より10ポイント以上高い。しかし「自分の意見や考えを発表することは得意である。」と答えた児童は22.6%で県平均より2ポイント低く、受動的な話し合いになってしまう傾向がある。発表への抵抗をなくすための話型の提示や、メモ、カードの活用を図り、それぞれが自信をもって思いを表出できるようにしていきたい。
 ●「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」と答えた児童は64.2%で市平均より5ポイント低い。昨年度4学年時の結果と比較すると、少しずつ意識の向上は見られるが、引き続き、授業において学習のめあてを明確に児童に示すとともに、授業の最後に児童が本時の授業内容を振り返る場と時間を確保し、「この時間に何をがんばればよいのか。」「この時間で自分が成長したこと。」を自覚できるようにしたい。

宇都宮市立清原南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本を定着させるために、家庭の学習力の向上を図る。	4月、7月の授業参観に合わせて家庭への啓発を図り、自主学習や繰り返しドリルを有効活用している。	4年生は、国・算・理それぞれともに、市の平均をほぼ上回っている。家庭学習の時間においては、1時間未満の子が市の平均よりも多い。
文章を正確に読み取り、自分の考えを持つ力の育成	各教科において、自分の「読み(意見・感想)」を「友達に伝え、自分の考えを表現し、学び合う時間」を作っている。	4・5年生ともに、文章問題の読み取りは市の平均よりも低く、内容の読み取りにおいては不十分な面がある。また、自分の考えを表現し、書くことにおいては市の平均を大きく上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、5年生の話すこと・聞くことについての平均が低い所が目立つ。また、4・5年生ともに書くことに関しては正答率が平均より高いが、自分の意見を筋道立てて考えることが難しい。また、算数においても思考を自ら組み立てて文章化することが難しいことが分かった。	・復習により定着を図る学習の充実 ・授業の中で、思考したことを図や言葉でまとめ、友達と共有する時間を設ける。	・学期末に復習の機会を設けると同時に、家庭学習においても復習できるよう啓発と復習方法を提示し、定着を図れるようにする。 ・各教科における学び合い、思考を組み立てる活動の充実を図れるようにする。